

参考資料（５）：監視カメラ関係記事

<「スマート・カメラ（Smart Camera）」（注１）が犯罪の発生を急速に押さえ込んでいる>The Times 18th, October, 1999.

---

最新の監視カメラ（CCTV）技術を用いたスマート・カメラで作るネットワークが、英国の最も問題な地域（ロンドン中心部など）の犯罪減少に劇的に効果を発揮しつつある。

このスマート・カメラでは、カメラで写した通行人の顔と警察で所有する被疑者の顔写真を照合するようになっている。

たとえば、ロンドンでのスマート・カメラのネットワークの本拠は、ロンドン東部（East London）のニューハム（Newham）にある工業地区の地図に載っていない倉庫に置かれている（注２）。

この本拠は、次の世代の地域警察活動（Policing）を変えるであろうと期待されている技術の提供源となっている。

例えば、この技術を持ってすれば、２～３年の内に、現在非常にこずっているサッカーフリーガンや空港を通過して行くテロリストを押さえ込むことも可能になるだろう。

政府は、既に、増加しつつある財産犯（Property Crime）と闘うために、このスマート・カメラを採用する可能性を検討している。

先週、トニー・ブレア首相は、警察本部長との会合でニューハム・プロジェクト（Newham Project）と呼ばれる計画を検討した。

ニューハム・プロジェクトでは、犯罪発生率（crime rate）を押さえるため、新世代スーパーCCTV（Super CCTV）を利用することになる。

実際、ロンドン評議会（London Council）は、このニューハム・プロジェクトを具体的に立ち上げつつある。具体的には、２４０台のCCTVを使い、このCCTVのコントロール・ルームと警察署本部を結びつける有線ネットワーク（fibre optic network）を１年以内に組み立てようというものである。

このカメラはリアルタイムで記録する。また、このネットワークは、従来のカメラ・システムに多く見られ問題となっていた時間差 (time lapses) を克服している。

ニューハム・プロジェクトで採用される顔判定システム (The Face Recognition System) は、この地域で繰り返し多くの犯罪を働いている者で、実際に地域で起っている犯罪の 85% に関与していると見られる 100 人の犯罪者についての記録を基にして組み立てられている。この”卓越した少数者たち” (prominent nominals) は、過去 12 カ月の間、路上強盗などを働き、今でもこうした犯罪を働いていると見られている者たちである。

この CCTV と警察の顔写真を結んだ顔認識リンク (The Face Recognition Link) は、犯罪者による襲撃や盗犯が集中して生じている”問題地点” (hot spot) のカメラに取り付けられる。

このニューハム内の犯罪者は、顔写真コンピューターとカメラが働いているということは知っている。しかし、どのカメラが何処のカメラが何時この顔認識データと結び付けられているかは知らない。

CCTV の操作者は、コード番号で犯罪者を確認する。ある人物が犯罪者であるということを知っているのは、唯一、警察官である。

一方、犯罪者は、自分がこのデータ・バンクに取り込まれているか否かを知らない。彼らにそれをチェックする権利はあるのだが、これまで誰もそれを求めてこなかった。

ここで使われるコンピューターは、高解析イメージ (High Resolution Image) によって 2 分の 1 秒以内に、カメラで捉らえたある人物がデータ・バンクに登録された犯罪者か否かを判定する。警報がコントロール・ルームに鳴り、また同時に警察の交番 (Local Police Station) でも警報が鳴る。そして、このカメラは、被疑者がカメラの視界範囲を出て行くまで追跡するのである。

このニューハムのネットワークには、また、12 台の自動車カメラが取り込まれている。さらに、このネットワークを構成する端末には、ゴミ置き場、電燈、街路の各種看板などにも隠すことの出来るカメラも含まれている。そしてさらに、こうしたネットワークの端末には、捜査官が撮ることの出来る内密のビデオ・カメラも取り込むことが出来る。

もし、犯罪者が自分の自動車あるいは盗んだ自動車に乗ることで、このカメラを避け

ようとしても、それでも彼は逮捕をまぬがれないであろう。なぜなら、このネットワークには、警察によって提供された不審車両の詳細なデータを基にした「数値認識コンピュータ・プログラム」が組込まれているからである。

このCCTVネットワークが作動し始めた6カ月間で、このカメラが取り付けられた6つの地域(area)で34%も減少した。

ある地域では、住居侵入犯罪(Residential Burglary)が72%、商店押し入り犯罪(Shop Break-ins)が33%、路上での強盗(Mugging)が26%の減少となり、さらに自動車盗の報告は1件もなかった。自動車からの盗みは3分の1に減った。

こうした効果をもたらしたネットワークのコストは200万ポンドであった(注3)。

ニューハムのセキュリティ・操作責任者で前警察官のボブ・ラック(Bob Lack)は、次の様に述べた。”このシステムは、世界で初めてのものである”。

ヒースロー空港では、現在、到着口に着いた旅客をカメラで写して処理するシステムを実験中である(注4)。

アメリカ合衆国においても、運転免許書やIDカードで顔をチェックするシステムが既にある。

注1. 監視カメラ=Closed Circuit Television=CCTVの事をこの様に表現。

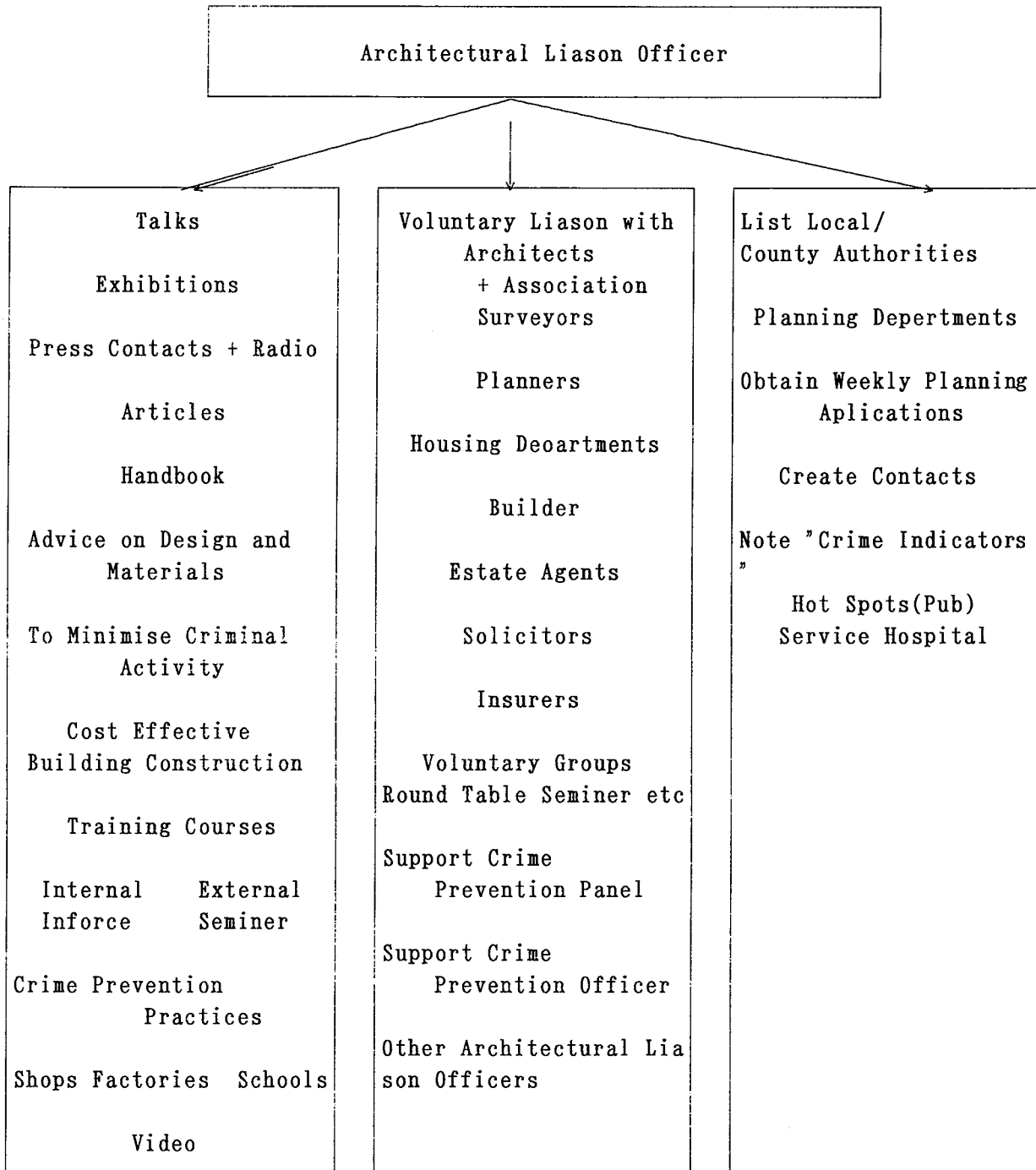
注2. 今回の実査では、一番最初にこのニューハムを訪れることになっている。

注3. 1ポンド=180円として3億6千万。

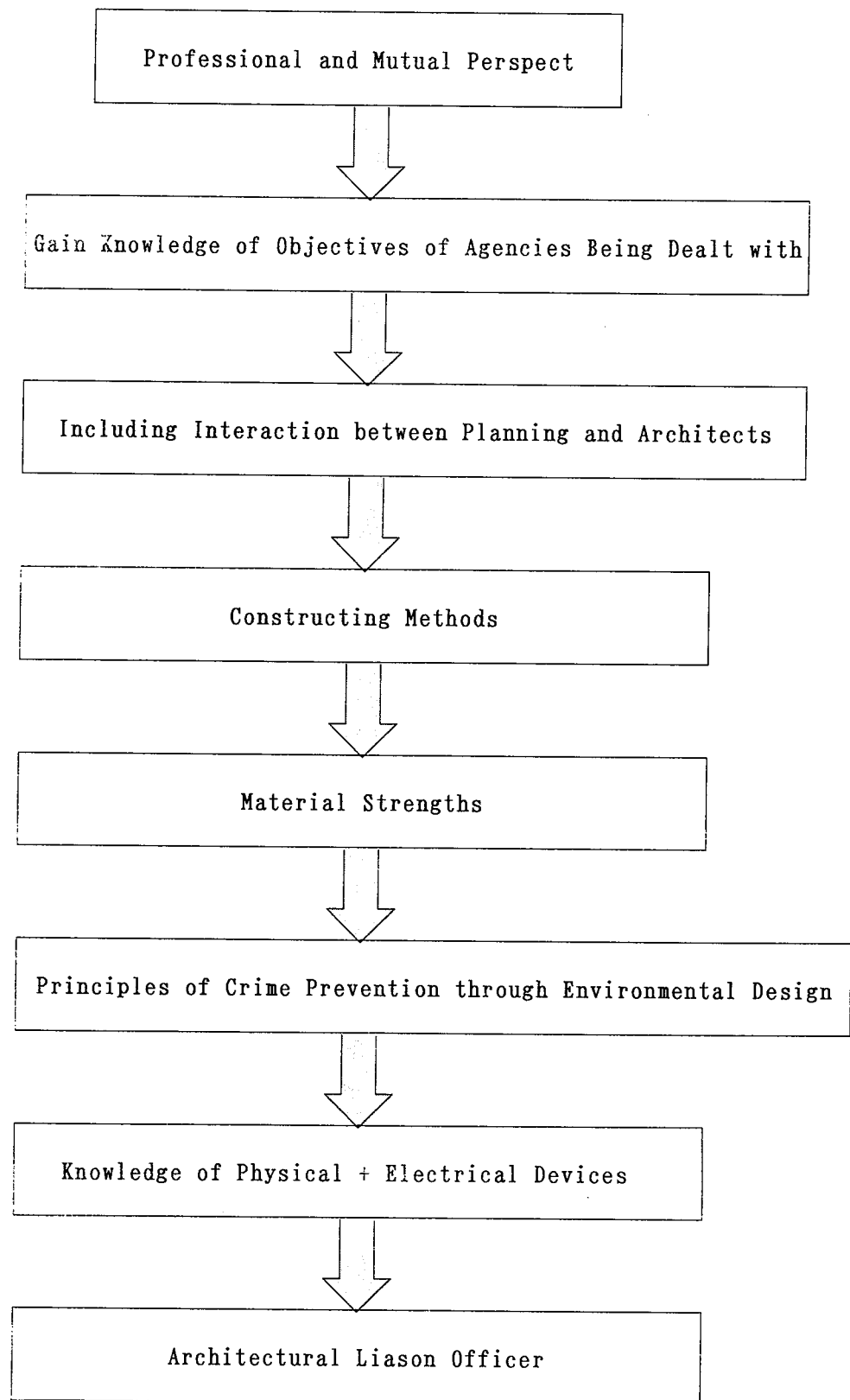
参考資料（6-1）：建築担当官の役割と担当官の下でなされる環境設計による犯罪防止（1999年10月）

I < 建築担当官の警察内部でのマクロな役割 >

\* Hertfordshire警察本部・建築担当官John Whiteの勤務内容分析を下にした。



II <環境設計面に絞った建築担当官の役割>



\*Hertfordshire警察本部・建築担当官John Whiteによる警察学校講義録より。

